

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2012年07月 | トップ | 2012年09月 》

検索

2012年08月27日(月)

 検索

脱原発・浦磯合宿に参加してきました

アーカイブ

残暑きびしい8月20-21日、「脱原発わかやま」主催による第2回・浦磯合宿が開催された。開催場所は、和歌山県日高町の民宿。ここは鏡のような水面を湛えた湾を見渡すのどかな小漁村、しかしかつて20数年前には原発立地計画で大揺れし、見事にそれを拒みとおしてきた経緯がある。浦磯とは、原発候補地となった日高町小浦の海辺のこと。なおこの合宿は、「浦磯」を名乗る前から、内容・方法に若干の違いはあっても、恒例化して続けられてきた。



写真中央に見える岬の先端が、かつての原発候補地

今回は、京大原子炉実験所「熊取5人衆」と京大関係の原子力・原発問題の学者、および地域で反原発の住民運動に関わっている人たち、それにマスコミ関係者も加わって総勢20数名、1歳～70歳？の合宿形式による学習会。もちろん、学習会のほかに・交流会・海で泳ぐ会・海の幸をいただく会・飲む会も大きな意味を持つ合宿なのである。

■第1日は、かつて原発立地候補地として反対運動をやり抜いた日高町のHさん、同じく日置川町のNさん、Sさんから、当時の様子と現状について簡単な報告から始まった。日置川には関電の所有地と職員が残っていることから、核燃料中間貯蔵施設の計画を警戒する必要がある、との話にヒヤリとさせられる。

次に、最近も飯館村に行かれたばかりの今中哲二さんから、3.11以降現在の福島の放射能汚染の現実についてパワーポイントを用いて情報提供。放射線量の減少は徐々に進んでいるように見える、そこにはさまざまな努力が払われているにちがいないが、簡単にできることではない。たとえば、やみくもな除染。

…宅地、農地、森林概算費用総額を飯館村の人口約6000人で割ると、1人当たり5000万円となる。とくに田んぼの除染1ha当たり4000万円。「帰還困難区域」ですらこの扱いというのはいかがなものか。除染ビジネスで大手ゼネコンを太らすばかりではないか？被災者や住民の生活の質を高める避難や保養などもっと有効な税金の使い方があってしかるべきだろう。

これにたいして、和歌山県や各市町村では、過疎対策としてIターンなどを勧めているのだからもっと積極的に被災家族受け入れを検討し推進しては？…という意見。だが、福島県や飯館村では住民を呼び戻すことが基本的方針であるため、行政の「移住受け入れ」推進はタブーなのだという。被災者にとって好ましい支援とは何か、世代間の価値観の違いや個々人の実情を考慮した、長期的なものは、と考えさせられた。

その他、今中さんをチューターに、現地の動植物の突然変異現象、果物や魚介類の放射能汚染、低レベル放射線被ばく、文科省の放射能副読本、等等話を聞き、疑問を出し合い、原発について考えをひろげていった。

最後に、とても時間がたりなくなって走ってしまうことになったが、本合宿のメインテーマ「未来に向けて、私たちは何ができるのか」について、田辺市のTさんからレジメをもとに提案があった。

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

■この後は、参加者はそれぞれ、海で泳いだり近くのお立ち寄り温泉に行ったり自由時間を楽しんだ。私たちはHさんの漁船で岬の先端まで行って、浦磯を案内してもらう。関西電力から別企業を経て、現在は町が買い戻している。海辺まで険しい崖がせまるが、陸上事前調査実施の痕跡の電柱もみえる。関電は山を崩し海を埋め立て、ここに原発をもって来る予定だったのだ。船べりからのぞきこむと透明度の高い海底に白砂がみえた。「この沖はブリやハマチやタコの宝庫なんや」だそうで、海上事前調査を拒否した漁師さんたちの心意気が伝わってきた。

■第2日、海老澤徹さんから「福島第1原発事故の現状と大飯原発の安全性」として話題提供。のはずがパワーポイントで丁寧なレクチャーがあり、研究仲間からも専門的な質問やツツコミを入れながら、すすめられた。

再稼働された大飯原発は、活断層の存在が問題視されているところだが、これ以外にも当地は交通手段が限られ地震で遮断されること、最低限の安全対策として東電ですらやっていた重要免震棟や消防車による注水システムがないことも強調された。

また、福島原発事故を起こした東電の法的責任を問う意見も噴出した。「漁船が燃料の重油を誤って海に流せば罰金ものなのに、高濃度汚染水を海に垂れ流した東電は…、一体どういうことなんよ？」とHさん(そうそう、そのとおり！)。

裁判はこれからあちこちで提訴され、東電と国の責任が法的にも問われていくことになるとおもわれるが、時効にさせてはならないこと、大勢の人が避難さなかに亡くなっているのだから民事ではなく刑事訴訟でいくべきだ、といったことが話し合われた。

■参加者一同、暑さにめげず、熱心に真剣に聞き・話した2日間だった。面白かった。民宿の料理も美味しかった。

■おまけ…と言っては何だが、解散後、有志で、町内の施設に入所されている鈴木静枝さんをお訪ねした。鈴木さんは6月1日ブログでも紹介している大先輩である。私は初対面だったが、ご高齢ながら、じつに明晰でかつ思慮深いお話をされる方だった。ホーム暮しも含めて自分の老後について考えさせてもらったことである。

(sora 記)

2012-08-27 | 記事へ | コメント(0)

2012年08月07日(火)

『原発を拒み続けた和歌山の記録』を読んで

『原発を拒み続けた和歌山の記録』に素敵な読後感を寄せてくださった方がいます。個人宛の私信ですが、ご本人の許しを得て、ブログに載せさせていただきます。

筆者の佐野 稔さんは、元・和歌山大学経済学部教授で、大学人としてご活躍のいっぽう、シンボジュウムの呼びかけ人や「原発に反対する和歌山市民の会」の世話人等、和歌山の反原発運動に深く関わってこられた方です。またそのあたたかいお人柄により、私たちも多くの励ましをいただけてきました。

「和歌山の記録」は最初目にした時、何人かが分担された、固い、ちょっと、とつき難い感じがいたしました。が、読み終わって、関電のアノ手コノ手の執拗で複雑な手法や、中々に簡単につかみ難い原発計画・過程を的確に、具体的に記述されていること、歴史的考察として大切なこと、有意義と思いました。ことなつた筆者によって、ほかの視点からの記述も争点をさらに明らかにされてよかったですと思います。

ともすれば固苦しくなりがちな記録を、候補地になった町々の生業の風景、かわりのある人たちの顔や息づかい、そこに生きる人間の記録として伝わってくる思いがいたします。淡々と語られる、鈴木静枝さんの講演の再録も、同時代、戦時に生きた私にも、心に沁みるもので、収載されてよかったですと思いました。

拒み続けた和歌山の反原発運動の土台に、宇治田さん、汐見先生ご夫妻の「公害教室」があったこと、時折でてくる旧(?)国労会館を拠とした「反原発クジラ新聞」など、なつかしくおもいだされます。「和歌山の忘れ得ぬひと」と、地道に運動を支えた人たちの素描は、闘いの奥深さ、哲学を語っているように思います。

このような特徴のある拒み続けた「記録」も、たたかひの志とともに文才のある人たちによって始めて結実したものと、深く敬意を表します。

この貴重な「記録」が一人でも多くの人に読まれることを願ってやみません。

おもいだすままに、一言、感想を述べさせて戴きました。

2012年09月(2)
2012年08月(2)
2012年07月(4)
2012年06月(4)
2012年05月(3)
2012年04月(1)
2012年03月(1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)
そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
コメントありがとう by sora (12/05)
突然すみません。東京 by 里美(11/22)
10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)
starさんコメントあり by sora (09/14)
このブログを読むまで by star(09/13)
こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
現在稼働している大飯 by star(04/09)
廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2012年08月 >						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発 美浜3号も廃炉に！ 11・13 琵琶湖集会(11/15)
汐見文隆先生、ありがとうございます(11/08)
原発がこわい女たちの会 ニュース99号発行(10/12)
高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
老朽原発・美浜3号機は廃炉に！パブコメを出そう(08/28)
ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

どうも、立派な本を贈っていただき、本当にありがとう。

佐野 稔

■『原発を拒み続けた和歌山の記録』については、このブログでも既に5月19日号で紹介しています。

- ・発行: 2012年5月11日
- ・監修者: 汐見文隆
- ・編者: 「脱原発わかやま」編集委員会
- ・発行所: 寿郎社
- ・定価: 1500円+税



2012-08-07 | [記事へ](#) | [コメント\(1\)](#) |

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

[トップ](#)
[RSS](#)

ID:

PASS:

[サイト管理者](#) ▼

[ログイン](#)

[SSLモードでログイン](#)

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

RSS 2.0